

28. 4. 2005

日 本 国 特 許 庁
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出 願 年 月 日 2 0 0 4 年 5 月 2 5 日
Date of Application:

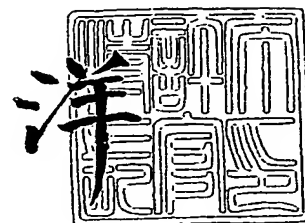
出 願 番 号 特 願 2 0 0 4 - 1 5 4 9 1 1
Application Number:
[ST. 10/C]: [J P 2 0 0 4 - 1 5 4 9 1 1]

出 願 人 大 日 本 印 刷 株 式 有 限 公 司
Applicant(s):

2 0 0 5 年 3 月 1 1 日

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

小 川



出証番号 出証特 2 0 0 5 - 3 0 2 1 3 9 1

【書類名】 特許願
【整理番号】 M2100030
【提出日】 平成16年 5月25日
【あて先】 特許庁長官殿
【国際特許分類】 G09F 9/00
【発明者】
 【住所又は居所】 東京都新宿区市谷加賀町一丁目 1 番 1 号 大日本印刷株式会社内
 【氏名】 後藤 正浩
【特許出願人】
 【識別番号】 000002897
 【氏名又は名称】 大日本印刷株式会社
【代理人】
 【識別番号】 100108800
 【弁理士】
 【氏名又は名称】 星野 哲郎
 【電話番号】 03-5524-2323
【選任した代理人】
 【識別番号】 100099645
 【弁理士】
 【氏名又は名称】 山本 晃司
 【電話番号】 03-5524-2323
【手数料の表示】
 【予納台帳番号】 131968
 【納付金額】 16,000円
【提出物件の目録】
 【物件名】 特許請求の範囲 1
 【物件名】 明細書 1
 【物件名】 図面 1
 【物件名】 要約書 1
 【包括委任状番号】 0105701

【書類名】 特許請求の範囲**【請求項 1】**

断面形状が台形のレンズ部が所定の間隔で配列されるとともに、隣り合う前記レンズ部間の楔形部は、前記レンズ部と、同一又は異なる材料が充填され、

前記楔形部は観察者側に先端を有するとともに映像側に底面を有し、さらに少なくともその斜面部分を構成する材料の屈折率 N_x と、前記レンズ部を構成する材料の屈折率 N_y との間に

$$N_x \leq N_y$$

なる関係が成立することを特徴とする視野角制御シート。

【請求項 2】

前記斜面部分が出光面の法線となす角度が $5 \sim 20$ 度であることを特徴とする請求項 1 に記載の視野角制御シート。

【請求項 3】

前記楔形部の断面形状は略二等辺三角形であることを特徴とする請求項 1 又は 2 に記載の視野角制御シート。

【請求項 4】

前記斜面部分が、観察者側面となす角が映像側と観察者側とで異なるように、曲線、及び又は折れ線状の断面形状を持つことを特徴とする請求項 1～3 のいずれか 1 項に記載の視野角制御シート。

【請求項 5】

前記楔形部の材料の屈折率が前記レンズ部の材料の屈折率に対して、 0.98 倍～ 0.8 倍であることを特徴とする請求項 1～4 のいずれか 1 項に記載の視野角制御シート。

【請求項 6】

前記楔形部に光吸収効果があることを特徴とする請求項 1～5 のいずれか 1 項に記載の視野角制御シート。

【請求項 7】

前記楔形部に光吸収粒子が添加されていることを特徴とする請求項 1～6 のいずれか 1 項に記載の視野角制御シート。

【請求項 8】

前記光吸収粒子の平均粒径が $1 \mu\text{m}$ 以上で、前記底面幅長の $2/3$ 以下であることを特徴とする請求項 7 に記載の視野角制御シート。

【請求項 9】

前記光吸収粒子の添加量が $10 \sim 50$ 体積%であることを特徴とする請求項 7 又は 8 に記載の視野角制御シート。

【請求項 10】

請求項 1～9 のいずれか 1 項に記載の視野角制御シートが映像源の観察者側に 1 枚、又は略直交して 2 枚積層されていることを特徴とする視野角制御シート。

【請求項 11】

少なくとも一面側に、AR、AS、AG、タッチセンサーのうちのいずれか、又はこれらの内複数の付加機能が付与されていることを特徴とする請求項 1～10 のいずれか 1 項に記載の視野角制御シート。

【請求項 12】

請求項 1～11 のいずれか 1 項に記載の視野角制御シートが接着されていることを特徴とする表示装置。

【請求項 13】

前記底面幅長は、一画素の大きさの $1/1.5$ 以下であることを特徴とする請求項 12 に記載の表示装置。

【書類名】明細書

【発明の名称】視野角制御シート

【技術分野】

【0001】

本発明は、有機発光ダイオード（以下において「OLED」という。）ディスプレイ、液晶ディスプレイ（以下において「LCD」という。）等の表示装置に好適に用いられる視野角制御用シートに関する。

【背景技術】

【0002】

OLEDディスプレイやLCDなどでは、通常、観察者がどのような位置から見ても良好な画像が得られるように、視野角が広いことが好まれる。例えば特許文献1には、複数の単位レンズを一次元又は二次元方向に形成し、単位レンズは入射光の一部がその内面で全反射する全反射部を備えるとともに、所定の屈折率 N_1 を有する材料にて形成されており、隣り合う単位レンズの間は、所定の屈折率 N_2 を有する材料が充填されている光拡散シートが開示されている。

【0003】

一方、例えば通勤電車の中で仕事をする場合等、周りの人から画面を覗かれては困ることがあり、このような場合にはディスプレイの観察者のみに見え、他人からは見えないような視野角の制御が望まれる。かかる要求に対して、例えば図12に示すようなルーバータイプの視野角制御シートが開発されて使用されている。

【特許文献1】特開2003-50307号公報

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0004】

しかし、ルーバータイプの視野角制御シートは、斜め方向の映像光を単純にカットしており、画面の輝度が低下するという問題があった。

【0005】

そこで、本発明は、画面の輝度の低下を抑制しうる視野角制御シートを提供することを課題とする。

【課題を解決するための手段】

【0006】

以下、本発明について説明する。なお、本発明の理解を容易にするために添付図面の参照符号を括弧書きにて付記するが、それにより本発明が図示の形態に限定されるものではない。

【0007】

請求項1の発明は、断面形状が台形のレンズ部が所定の間隔で配列されるとともに、隣り合うレンズ部間の楔形部は、レンズ部と同一又は異なる材料が充填され、楔形部は観察者側に先端を有するとともに映像側に底面を有し、さらに少なくともその斜面部分を構成する材料の屈折率 N_x と、前記レンズ部を構成する材料の屈折率 N_y との間に

$$N_x \leq N_y$$

なる関係が成立することを特徴とする視野角制御シートにより前記課題を解決するものである。

【0008】

請求項2の発明は、請求項1に記載の視野角制御シートにおいて、斜面部分が出光面の法線となす角度が5～20度であることを特徴とする。

【0009】

請求項3の発明は、請求項1又は2に記載の視野角制御シートにおいて、楔形部の断面形状は略二等辺三角形であることを特徴とする。

【0010】

請求項4の発明は、請求項1～3のいずれか1項に記載の視野角制御シートにおいて、

斜面部分が、観察者側面となす角が映像側と観察者側とで異なるように、曲線、及び又は折れ線状の断面形状を持つことを特徴とする。

【0011】

請求項5の発明は、請求項1～4のいずれか1項に記載の視野角制御シートにおいて、楔形部の材料の屈折率が前記レンズ部の材料の屈折率に対して、0.98倍～0.8倍であることを特徴とする。

【0012】

請求項6の発明は、請求項1～5のいずれか1項に記載の視野角制御シートにおいて、楔形部に光吸収効果があることを特徴とする。

【0013】

請求項7の発明は、請求項1～6のいずれか1項に記載の視野角制御シートにおいて、楔形部に光吸収粒子が添加されていることを特徴とする。

【0014】

請求項8の発明は、請求項7に記載の視野角制御シートにおいて、光吸収粒子の平均粒径が $1\mu\text{m}$ 以上で、底面幅長の $2/3$ 以下であることを特徴とする。

【0015】

請求項9の発明は、請求項7又は8に記載の視野角制御シートにおいて、光吸収粒子の添加量が10～50体積%であることを特徴とする。

【0016】

請求項10の発明は、請求項1～9のいずれか1項に記載の視野角制限シートが映像源の観察者側に1枚、又は略直交して2枚積層されていることを特徴とする視野角制御シートにより前記課題を解決するものである。

【0017】

請求項11の発明は、請求項1～10のいずれか1項に記載の視野角制御シートにおいて、少なくとも一面側に、AR、AS、AG、タッチセンサーのうちのいずれか、又はこれらの内複数の付加機能が付与されていることを特徴とする。

【0018】

請求項12の発明は、請求項1～11のいずれか1項に記載の視野角制御シートが接着されていることを特徴とするディスプレイにより前記課題を解決するものである。

【0019】

請求項13の発明は、請求項12に記載のディスプレイにおいて、底面幅長は、一画素の大きさの $1/1.5$ 以下であることを特徴とする。

【発明の効果】

【0020】

本発明によれば、輝度の低下を抑制しうる視野角制御シートを得ることができる。また本発明の視野角制御シートによれば、画像のコントラストを向上させることができる。本発明のこのような作用及び利得は、次に説明する発明を実施するための最良の形態から明らかにされる。

【発明を実施するための最良の形態】

【0021】

以下本発明を図面に示す実施形態に基づき説明する。

【0022】

図1は、本発明の第一実施形態にかかる視野角制御シートS1の一方向の断面を示す図である。図1においては、図面左側に映像光源が配置され、図面の右側に観察者が位置している。この視野角制御シートS1は、映像側から観察者方向に順に、映像側ベースシート11、レンズ部12、観察者側ベースシート13が張り合わされて形成されている。レンズ部12は、屈折率がN1の物質で形成されている。さらに、図では上下に隣接するレンズ部12、12の斜辺に挟まれた断面形状三角形の部分は、レンズ部12の屈折率N1より低い屈折率N2を有する物質で埋められている。以後の説明においてはこの低屈折率物質で埋められている部分を「楔形部14」という。楔形部14は、観察者側に先端、映

像側に底面 17 を備えている。

【0023】

レンズ部 12 の屈折率 $N1$ と、楔形部 14 の屈折率 $N2$ との比は、視野角制御シート S1 の光学特性を得るために所定の範囲に設定されている。また、楔形部 14 とレンズ部 12 とが接する斜辺が、出光面の法線 V (当該視野角制御シート S1 に対する垂直入射光に平行な線) となす角度は所定の角度 $\theta 1$ に形成されている。これらについては後に詳述する。

【0024】

楔形部 14 は、カーボン等の顔料又は所定の染料にて所定濃度に着色されている。また、映像側ベースシート 11、及び観察者側ベースシート 13 は、レンズ部 12 と略同一の屈折率を有する材料にて構成されている。観察者側ベースシート 13 の外側面には、観察者側に AR、AS、AG うち、少なくとも一の機能を備えている。ここに「AR」とはアンチリフレクションの略で、レンズ表面に入光する光の反射率を抑える機能をいう。また、「AS」とはアンチスタティックの略で、帯電防止の機能をいう。また「AG」とはアンチグレアの略で、レンズの防眩性機能をいう。本第一実施形態にかかる視野角制御シート S1 においてはこれらの機能の内一つだけを持たせてもよく、また複数の機能を併せ持たせてもよい。

【0025】

次に視野角制御シート S1 のレンズ部 12 内に入光した光の光路について、図 1 を参照しつつ簡単に説明する。なお、図 1 において、光 L11 ~ L15 の光路は模式的に示されたものである。いま、映像光源側からレンズ部 12 の中央部付近に入射した垂直光 L11 は、そのまま視野角制御シート S1 の内部を直進して通過し、観察者に至る。映像光源側から所定の角度をもってレンズ部 12 の端部付近に入射した入射光 L12 は、屈折率 $N1$ のレンズ部 12 と屈折率 $N2$ の楔形部 14 との屈折率差により斜辺にて全反射され、観察者側に垂直光として出光される。映像光源側からレンズ部 12 の端部付近に大きな角度をもって入射した光 L13 は、斜辺にて全反射され、入射時とは反対方向の小さな角度をもって、垂直光に近い角度となって観察者側に出光される。底面 17 から楔形部 14 に直接入射する光 L14 は、楔形部 14 の内部に入光する。楔形部 14 は着色されているので、光 L14 は楔形部 14 にて吸収され、観察者側に至ることはない。さらに観察者側から斜辺に所定以上の大きな角度をもって入射する外光 L15 は、レンズ部 12 と楔形部 14 との屈折率差によっても全反射されることなく楔形部 14 の内部に入光する。外光 L15 は着色された楔形部 14 に吸収される。したがって観察者側からの視野による画像のコントラストが向上する。このようにして断面方向に視野角を制御することが可能かつ、輝度の低下を抑制することができ、コントラストの高い視野角制御シートを得ることができる。

【0026】

図 2 は、第二実施形態にかかる視野角制御シート S2 の一方向の断面を示す図である。図 2 においても、図面左側に映像光源が配置され、図面の右側に観察者が位置している。この視野角制御シート S2 は、映像側から観察者方向に順に、映像側ベースシート 21、レンズ部 22、観察者側ベースシート 23 が張り合わされて形成されている。レンズ部 22 は、屈折率が $N1$ の物質で形成されている。さらに、図では上下に隣接するレンズ部 22、22 の斜辺に挟まれた断面形状三角形の部分は、レンズ部 22 の屈折率 $N1$ より低い屈折率 $N2$ を有する物質で埋められている。以後の説明においてはこの低屈折率物質で埋められている部分を「楔形部 24」という。楔形部 24 は、観察者側に先端、映像側に底面 27 を備えている。

【0027】

レンズ部 22 の屈折率 $N1$ と、楔形部 24 の屈折率 $N2$ との比は、視野角制御シート S2 の光学特性を得るために所定の範囲に設定されている。また、楔形部 24 とレンズ部 22 とが接する斜辺が、出光面の法線 V (当該視野角制御シート S2 に対する垂直入射光に平行な線) となす角度は所定の角度 $\theta 2$ に形成されている。

【0028】

楔形部 24 は、カーボン等の顔料又は所定の染料にて所定濃度に着色されている。また、映像側ベースシート 21、及び観察者側ベースシート 23 は、レンズ部 22 と略同一の屈折率を有する材料にて構成されている。観察者側ベースシート 23 の外側面には、観察者側に AR、AS、AG うち、少なくとも一の機能を備えている。本実施形態においてもこれらの機能の内一つだけを持たせてもよく、また複数の機能を併せ持たせてもよい。

【0029】

図示の視野角制御シート S2 は、その底面 27 にブラックストライプ（レンズ部 22 が一次元方向に配列されている場合。二次元方向に配列されている場合には、多数の円形の黒色面である。）BS が形成されている。また、楔形部 24 の内部にはレンズ部 22 の屈折率 N1 より低い屈折率 N2 を有する材料が充填されている。かかる構成を有する視野角制御シート S2 によっても、映像光源側からの各入射光 L21～L23 は第一実施形態にかかる視野角制御シート S1 における入射光 L11～L13 と同様の光路をたどる。また、底面 27 のブラックストライプ BS に入射した光 L24 はブラックストライプ BS により吸収される。さらに観察者側から斜辺に所定以上の大きな角度をもって入射する外光 L25 は、レンズ部 22 と楔形部 24 との屈折率差によっても全反射されることなく楔形部 24 の内部に入光する。外光 L25 は着色された楔形部 24 に吸収される。したがって観察者側からの視野による画像のコントラストが向上する。したがって、視野角制御シート S2 によっても、第一実施形態にかかる視野角制御シート S1 と同様の効果、すなわち断面方向に視野角を制御することが可能かつ、輝度の低下を抑制し、コントラストの高い視野角制御シートを得ることができる。

【0030】

図 3 は、本発明の第三実施形態の視野角制御シート S3 を示している。この視野角制御シート S3 は、映像側から観察者側方向に順に、映像側ベースシート 31、レンズ部 32、観察者側ベースシート 33 が張り合わされて配置されている。レンズ部 32 は高屈折率 N1 を有する物質により形成されている。さらに、図において上下方向に隣接するレンズ部 32、32 の斜辺には、N1 より小さな屈折率 N2 を備え透明な物質により形成された層 34（以下「透明低屈折率層 34」という。）が形成されている。また隣接するレンズ部 32 の間に挟まれた断面形状三角形の部分は、レンズ部 32 の屈折率 N1 と略同一の屈折率を有する物質が充填されている。以後の説明においてはこの断面形状三角形の部分を「レンズ間部分 35」ということもある。

【0031】

レンズ部 32 の屈折率 N1 と、透明低屈折率層 34 の屈折率 N2 との比は、視野角制御シート S3 の光学特性を得るために所定の範囲に設定されている。また、透明低屈折率層 34 とレンズ部 32 とが接する斜辺が、出光面の法線 V（当該視野角制御シート S3 に対する垂直入射光に平行な線）となす角度は所定の角度 θ_3 に形成されている。これらについて、後に詳述する。

【0032】

レンズ部 32 は通常電離放射線硬化性を有するエポキシアクリレートなどの材料にて構成されている。透明低屈折率層 34 は、シリカ等透明樹脂の屈折率より低い屈折率を有する材料にて形成されている。また、レンズ間部分 35 は、カーボン、顔料又は所定の染料等にて所定濃度に着色されている。また、映像側ベースシート 31、及び観察者側ベースシート 33 は、レンズ部 32 と略同一の屈折率を有する材料にて構成されている。観察者側ベースシート 33 の外側面には、上記第一実施形態にかかる視野角制御シート S1 と同様に、観察者側に AR、AS、AG うち、少なくとも一の機能が備えられている。

【0033】

かかる構成を有する視野角制御シート S3 によっても、映像光源側からの各入射光 L31～L33 は第一実施形態にかかる視野角制御シート S1 における入射光 L11～L13 と同様の光路をたどる。また、着色されたレンズ間部分 35 の底面 37 に入射する光 L34 は、着色された透明低屈折率層 34 の内部に入光して、着色された透明低屈折率層 34 に吸収され、観察者側に至ることはない。さらに、観察者側から斜辺に所定以上の大きな

角度をもって入射する外光 L 37 は、レンズ部 32 と透明低屈折率層 34 との屈折率差によっても全反射されることなく透明低屈折率層 34 の内部に入光する。外光 L 37 は着色された透明低屈折率層 34 に吸収される。したがって観察者側からの視野による画像のコントラストが向上する。したがって、第一実施形態にかかる視野角制御シート S 1 と同様の効果、すなわち断面方向に視野角を制御することが可能かつ、輝度の低下を抑制し、コントラストの高い視野角制御シートを得ることができる。

【0034】

図 4 は、本発明の第四実施形態にかかる視野角制御シート S 4 の断面を示している。この視野角制御シート S 4 は、映像側から観察者の方向に順に、映像側ベースシート 41、レンズ部 42、観察者側ベースシート 43 が張り合わされて配置されている。レンズ部 42 は高屈折率 N1 を有する物質により形成されている。さらに、図面上下方向に隣接するレンズ部 42、42 にはさまれた断面形状三角形の部分には、N1 より小さな屈折率 N2 を備えた透明な物質（以下において「透明低屈折率物質 46」という。）中に光吸収粒子 49 が添加された材料で充填されている。以降の説明においては、この透明低屈折率物質 46 が充填されている部分を「楔形部 44」と呼ぶ。楔形部 44 は、観察者側に先端、映像側に底面 47 を備えている。

【0035】

本実施形態においては、レンズ部 42 の屈折率 N1 と、透明低屈折率物質 46 の屈折率 N2 との比は、視野角制御シート S 4 の光学特性を得るために所定の範囲に設定されている。また、楔形部 44 とレンズ部 42 とが接する斜辺が、出光面の法線 V（当該視野角制御シート S 4 に対する垂直入射光に平行な線）となす角度は所定の角度 $\theta 4$ に形成されている。

【0036】

レンズ部 42 は通常、電離放射線硬化性を有するエポキシアクリレートなどの材料にて構成されている。また、透明低屈折率物質 46 として通常、電離放射線硬化性を有するウレタンアクリレートなどの材料が使用されている。光吸収粒子 49 は市販の着色樹脂微粒子が使用可能である。また、映像側ベースシート 41、及び観察者側ベースシート 43 は、レンズ部 42 と略同一の屈折率を有する材料にて構成されている。観察者側ベースシート 43 の観察者側には、本実施形態においても、上記第一実施形態にかかる視野角制御シート S 1 と同様に、観察者側に AR、AS、AG うち、少なくとも一の機能を備えている。

【0037】

次に視野角制御シート S 4 のレンズ部 42 内に入光した光の光路について、図 4 を参照しつつ簡単に説明する。なお、図 4 において、光 L 41 ~ L 43、及び L 44 の光路は模式的に示されたものである。いま、図 4 において、映像光源側からレンズ部 42 の中央部付近に入射した垂直光 L 41 は、そのまま視野角制御シート S 4 の内部を直進して通過し、観察者に至る。映像光源側からレンズ部 42 の端部付近に斜めに入射した光 L 42 は、レンズ部 42 と透明低屈折率物質 46 との屈折率差により斜辺にて全反射され、垂直光となって観察者側に出光される。映像光源側からレンズ部 42 の端部付近にさらに大きな角度をもって、入射した光 L 43 は、斜辺にて全反射され、入射時とは反対方向に入射時よりも小さな角度をもって、垂直光に近い角度で観察者側に出光される。楔形部 44 の底面 47 に入射する光 L 44 は、楔形部 44 の内部に入光して、光吸収粒子 49 に吸収され、観察者側に至ることはない。さらに、観察者側から斜辺に所定以上の大きな角度をもって入射する外光 L 45 は、レンズ部 42 と楔形部 44 との屈折率差によっても全反射されることなく楔形部 44 の内部に入光する。外光 L 45 は楔形部 44 の光吸収粒子 49 に吸収される。したがって観察者側からの視野による画像のコントラストが向上する。このようにして映像側から様々な角度をもって入射する光が観察者側から、出光面法線方向あるいはそれに近い方向に出光されるので、視野角を制御しつつ、輝度の低下を抑制し、コントラストの高い視野角制御シートを得ることができる。

【0038】

図5は、本発明の第五実施形態の視野角制御シートS5を示している。この視野角制御シートS5も、映像側から観察者方向に順に、映像側ベースシート51、レンズ部52、観察者側ベースシート53が張り合わされて配置されている。レンズ部52は高屈折率N1を有する物質により形成されている。さらに、前面において上下に隣接するレンズ部52、52の斜辺には、N1より小さな屈折率N2を備え透明な物質により形成された層54（以下「透明低屈折率層54」という。）が形成されている。また隣接するレンズ部52の間に挟まれた断面形状三角形の部分は、N2より高い屈折率を有する物質58中に光吸収粒子59が添加された材料が充填されている。以後の説明においてはこの断面形状三角形の部分を「レンズ間部分55」という。

【0039】

レンズ部52の屈折率N1と、透明低屈折率層54の屈折率N2との比は、視野角制御シートS5の光学特性を得るために所定の範囲に設定されている。また、透明低屈折率層54とレンズ部52とが接する斜辺が、出光面の法線V（当該視野角制御シートS5に対する垂直入射光に平行な線）となす角度は所定の角度 $\theta 5$ に形成されている。

【0040】

レンズ部52は通常、電離放射線硬化性を有するエポキシアクリレートなどの材料にて構成されている。また、透明低屈折率層54は、シリカ等透明樹脂の屈折率より低い屈折率を有する材料にて形成されている。光吸収粒子59は市販の着色樹脂微粒子が使用可能である。また、映像側ベースシート51、及び観察者側ベースシート53は、レンズ部52と略同一の屈折率を有する材料にて形成されている。観察者側ベースシート53の観察者側には、本実施形態においても、上記第一実施形態にかかる視野角制御シートS1と同様に、観察者側にAR、AS、AGうち、少なくとも一の機能を備えている。

【0041】

次に視野角制御シートS5のレンズ部2内に入光した光の光路について、図5を参照しつつ簡単に説明する。なお、図5においても、光L51～L54の光路は模式的に示されたものである。図5において、映像光源側からレンズ部52の中央部付近に入射した垂直光L51は、そのまま視野角制御シートS5の内部を直進して通過し、観察者に至る。

【0042】

映像光源側からレンズ部52の端部付近に角度をもって入射した垂直光L52は、レンズ部52と透明低屈折率層54との屈折率差により斜辺にて全反射され、垂直光となって観察者側に出光される。映像光源側からレンズ部52の端部付近にさらに大きな角度をもって入射した光L53は、斜辺にて全反射され、入射時とは反対方向に入射時より小さな角度をもって、垂直光に近い状態で観察者側に出光される。また、映像側からレンズ間部分55に入光した光L54も、光吸収粒子59に吸収され、観察者側に反射光となって、出光されることがない。さらに、観察者側から斜辺に所定以上の大きな角度をもって入射する外光L55は、レンズ部52と透明低屈折率層54との屈折率差によっても全反射されることなくレンズ間部分55の内部に入光する。外光L55はレンズ間部分55の光吸収粒子59に吸収される。したがって観察者側からの視野による画像のコントラストが向上する。このようにして、広い視野角をもち、輝度の低下を抑制し、コントラストの高い視野角制御シートS5を得ることができる。

【0043】

第四実施形態及び第五実施形態にかかる視野角制御シートS4、S5における光吸収粒子49、59は、平均粒径が $1\mu\text{m}$ 以上で、楔形部44の底面47、あるいはレンズ間部分55の底面57幅長さの $2/3$ 以下であることが好ましい。光吸収粒子49、59の大きさが小さすぎると、十分な光吸収効果を得ることができない。一方、光吸収粒子49、59の大きさが大きすぎると、製造時に、底面47、57から楔形部44、あるいはレンズ間部分55の内部に充填しにくくなり好ましくない。また、第四実施形態及び第五実施形態にかかる視野角制御シートS4、S5における光吸収粒子49、59は、楔形部44、あるいはレンズ間部分55の全体の体積に対して10～50体積%であることが好ましい。かかる比率を維持することによって、十分な光吸収効果を保ちつつ、容易な製造条件を

与えることができる。

【0044】

次に、図6及び図7を用いて、本発明の第三実施形態にかかる視野角制御シートS3の単位レンズ部32に入射した視野角制御シートS内の光が斜辺にて全反射され、かつ入光面においては、全反射されずにレンズ内に入射する条件について検討する。

【0045】

図6は、視野角制御シートS3内において、視野角制御シートS3の斜辺で反射した光L32が出射面に対して垂直に出射する場合の光路を示す図である。図6において、映像光源は図面下方に、観察者は図面上方に位置するものとする。また映像側ベースシート31、及び観察者側ベースシート33は説明の簡略化のため省略している（図7において同じ。）。

【0046】

図6において、斜辺に入射した光L32が、斜辺のA点において全反射され始める条件（臨界条件）は、スネルの法則により、

$$\sin(90^\circ - \theta_3) = N2/N1$$

であるから、垂直光L32が常に全反射されるためには、

$$(式1) \quad \sin(90^\circ - \theta_3) > N2/N1$$

なる条件を満たす必要がある。

【0047】

また、斜辺のA点にて全反射される光L32が、入光面のB点において全反射され始める条件（臨界条件）は、大気の屈折率を1とした場合、スネルの法則により、 $\sin 2\theta_3 = 1/N1$

であるから、光L5がB点から観察者側に確実に光されるためには、

$$(式2) \quad \sin 2\theta_3 < 1/N1$$

なる条件を満たす必要がある。

【0048】

なお参考のために図7を参照しつつ、視野角制御シートS3のレンズ部に入射して、斜辺に反射され、その結果出光面法線に対して10°の傾きとなる光L35の光路について以下に簡単に説明する。

【0049】

図7において、視野角制御シートS3内で斜辺に入射した光L35が、斜辺のA点において全反射され始める条件（臨界条件）は、スネルの法則により、

$$\sin(80^\circ - \theta_3) = N2/N1$$

であるから、常に全反射されるためには、

$$(式3) \quad \sin(80^\circ - \theta_3) > N2/N1$$

なる条件を満たす必要がある。

【0050】

また、光が入光面のB点において全反射され始める条件（臨界条件）すなわち光が入射面にて全反射され、視野角制御シート内に入射しない条件は、大気の屈折率を1とした場合、スネルの法則により、 $\sin(2\theta_3 + 10^\circ) = 1/N1$

であるから、光が映像側からB点に確実に入光されるためには、

$$\sin(2\theta_3 + 10^\circ) < 1/N1$$

すなわち

$$(式4) \quad N1 < 1/\sin(2\theta_3 + 10^\circ)$$

なる条件を満たす必要がある。

【0051】

次に θ_3 が5°～20°であるとして、その範囲においてさらに具体的にN1とN2の値を考察する。5°< θ_3 <20°の範囲においては、

$$0.940 < \sin(90^\circ - \theta_3) < 0.996$$

であり、式1により、N2/N1の値はこれより小さいから

(式5) $N2/N1 < 0.940$

【0052】

一方、 $5^\circ < \theta_3 < 20^\circ$ の範囲では、

1. $56 < 1/\sin 2\theta_3 < 5.76$

であるから、式2より、

(式6) $N1 < 1.56$

さらに、入手しうる現実の材料を考慮した場合、 $N2$ の最小値は1.30なので、

$N2/N1 > 1.30/1.56 = 0.83$

したがって上式と式6から

(式7) $0.83 < N2/N1 < 0.940$

上記式6及び式7が $5^\circ < \theta < 20^\circ$ の範囲での、斜辺にて反射された光が、隣接する斜辺に位置的に全く干渉されない条件のために $N2/N1$ の値がとりうる範囲である。本発明においては、シートの製造条件や実用上の性質を加味した上で、

$0.80 < N2/N1 < 0.98$

と規定している。

【0053】

図8は、低屈折率部4の形状の諸態様を示す図である。この低屈折率部4は、隣接する二つの単位レンズ2、2の斜辺により形成される略三角形の形状を有している。図8(a)は、斜辺が直線にて形成されている場合を表している。この場合には、斜辺と出光面法線とがなす角度 θ_{11} は斜辺上のどの点においても一定である。図8(b)は、斜辺が滑らかな曲線で形成されている場合を表している。また図8(c)は、斜辺が2本の直線にて構成されている場合を示している。これらの場合、斜辺と出光面法線とがなす角度 θ_{12} 、又は θ_{13} 若しくは θ_{14} は、斜辺上の位置により異なる。本発明において図8(b)や図8(c)の場合のように斜辺と出光面法線のなす角度が一定でないときは、斜辺の長さの90%以上において、以上に説明してきた式1~7の各条件を満たせば本発明の効果を得ることができる。

【0054】

図9及び図10は、視野角制御シートの構成の一例を示す図である。図9に示される視野角制御シートS10は水平断面形状が垂直方向に一定な単位レンズ102を備えている。映像側にはベースシート101が、観察者側にはベースシート103が配置されている。図面では理解のためにこれら三者が離れて表されているが、実際にはこれらは貼り合わされている。

【0055】

一方、図10に示されている視野角制御シートS11においては、半載円錐状の単位レンズが垂直平面上に二次元状に配列されている。各単位レンズの半載円錐の頂部平面は同一面上に形成されており、この平面にベースシート111が貼り合わされている。ベースシート111と単位レンズ112との間の空隙は低屈折率の材料で埋められており、低屈折率部114を形成している。図9及び図10のいずれに示されている視野角制御シートS10、S11の構成によっても本発明による効果を得ることができる。

【0056】

図11は、本発明にかかる視野角制御シートを備えた表示装置120の構成を示している。図11において、紙面手前左下方向が映像側であり、紙面奥側右上方向を観察者側とする。本発明の表示装置120は、映像側から順に、液晶ディスプレイパネル121と、レンズ部が垂直方向に配列された視野角制御シート122と、レンズ部が水平方向に配列された視野角制御シート123と、フレネルレンズ124、及びAR、AS、AGうち、少なくとも一の機能が備えられている機能性シート125とを備えている。なお、視野角制御シート122と視野角制御シート123との配置を入れ替えてもよい。図11においてはこれらが互いに離れて表されているが、これは図面の理解のためであり、実際にはこれらは互いに接するか、又は接着されている。

【0057】

なお、本発明の表示装置 120 において、視野角制御シートの楔形部底面の幅は、表示装置 120 の一画素の大きさの $1/1.5$ 以下であることが好ましい。かかる比率を保つことによって、モアレ模様の発生を抑制することができる。また本発明において、「視野角制御シート」とは、2枚の視野角制御シート 122 と視野角制御シート 123 との組み合わせを構成の中核とするが、図 11 にあるように、これらの出光側にフレネルレンズ 124 や機能性シート 125 などが配置されている場合には、これらフレネルレンズ 124 や機能性シート 125 をも含む概念である。

【実施例 1】

【0058】

図 8 (c) にあるような、楔形部を有する視野角制御シートを下記仕様にて作製した。その視野角は、 15° に制御可能であった。

開口率: 50%

$\theta 13 = 8^\circ$

$\theta 14 = 12^\circ$

レンズ間ピッチ: 0.05 mm

レンズ部材料 (樹脂) 屈折率: 1.56

楔形部材料屈折率: 1.48

【0059】

以上、現時点において、もっとも、実践的であり、かつ、好ましいと思われる実施形態に関連して本発明を説明したが、本発明は、本願明細書中に開示された実施形態に限定されるものではなく、請求の範囲及び明細書全体から読み取れる発明の要旨あるいは思想に反しない範囲で適宜変更可能であり、そのような変更を伴う視野角制御シートもまた本発明の技術的範囲に包含されるものとして理解されなければならない。

【図面の簡単な説明】

【0060】

【図 1】 本発明の第一実施形態にかかる視野角制御シートの一方向の断面を示す図である。

【図 2】 第二実施形態にかかる視野角制御シートの一方向の断面を示す図である。

【図 3】 第三実施形態にかかる視野角制御シートの一方向の断面を示す図である。

【図 4】 第四実施形態にかかる視野角制御シートの一方向の断面を示す図である。

【図 5】 第五実施形態にかかる視野角制御シートの一方向の断面を示す図である。

【図 6】 視野角制御シートから垂直に光を射出するように、光をレンズ部に入射させる条件を検討するための図である。

【図 7】 視野角制御シートから 10° の傾きを持って射出されるように、光をレンズ部に入射させる条件を検討するための図である。

【図 8】 低屈折率部の形状の諸態様を示す図である。

【図 9】 視野角制御シートの構成の一例を示す図である。

【図 10】 視野角制御シートの構成の、他の一例を示す図である。

【図 11】 視野角制御シートを備えた表示装置の構成の一例を示す図である。

【図 12】 従来の視野角制限シートの一例を示す図である。

【符号の説明】

【0061】

S1、S2、S3、S4、S5、S10、S11 視野角制御シート

11、21、31、41、51 映像側ベースシート

12、22、32、42、52 レンズ部

13、23、33、43、53 観察者側ベースシート

14、24、34、44、54 楔形部

35、55 レンズ間部分

17、27、37、47、57 底面

120 表示装置

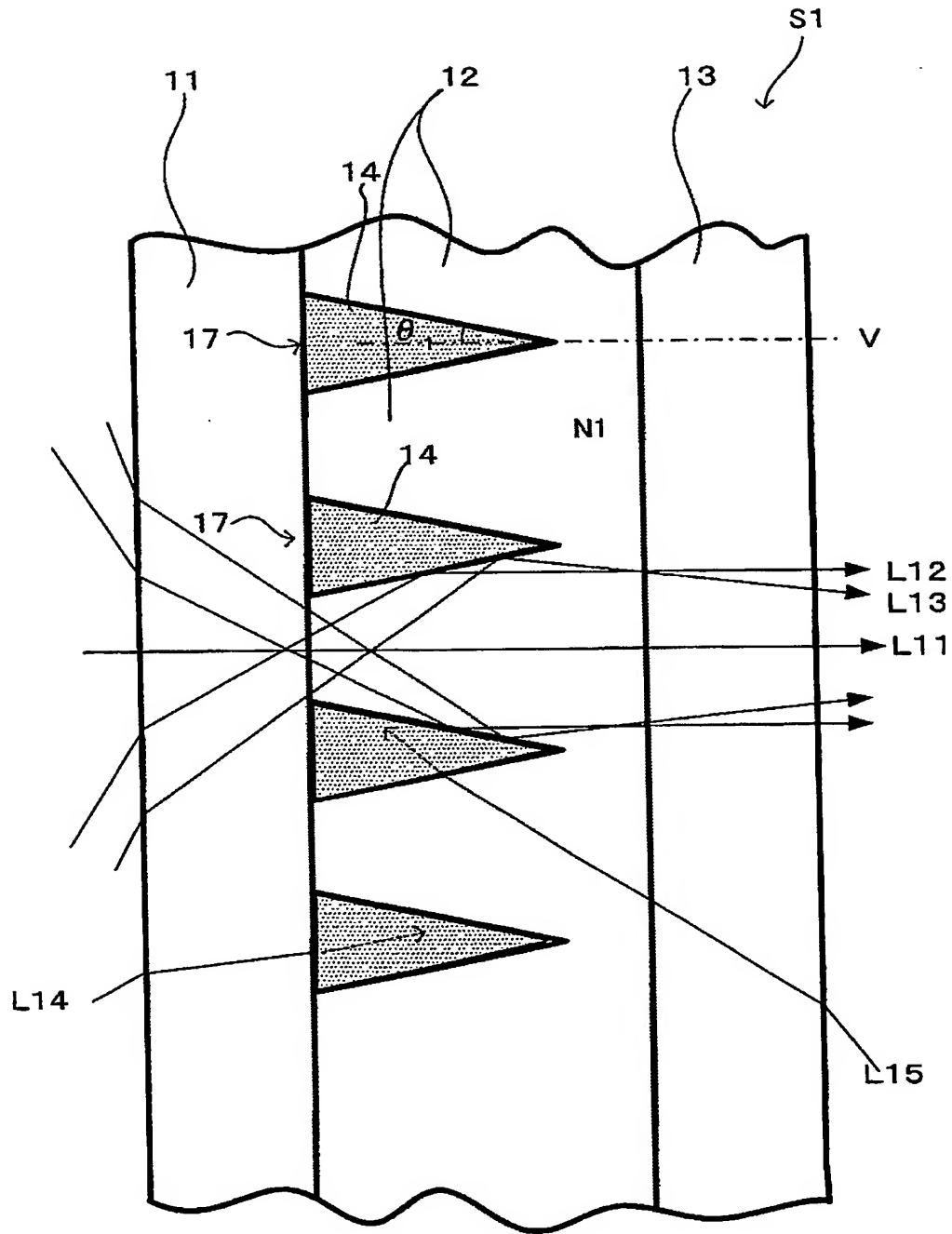
L 1 1、1 2、1 3、2 1、2 2、2 3、3 1、3 2、3 3、4 1、4 2、4 3、5 1
、5 2、5 3 光線
L 1 4、2 4、3 4、4 4、5 4 底面へ入射する光
L 1 5、2 5、3 7、4 5、5 5 外光

【書類名】 図面

【図 1】

(映像側)

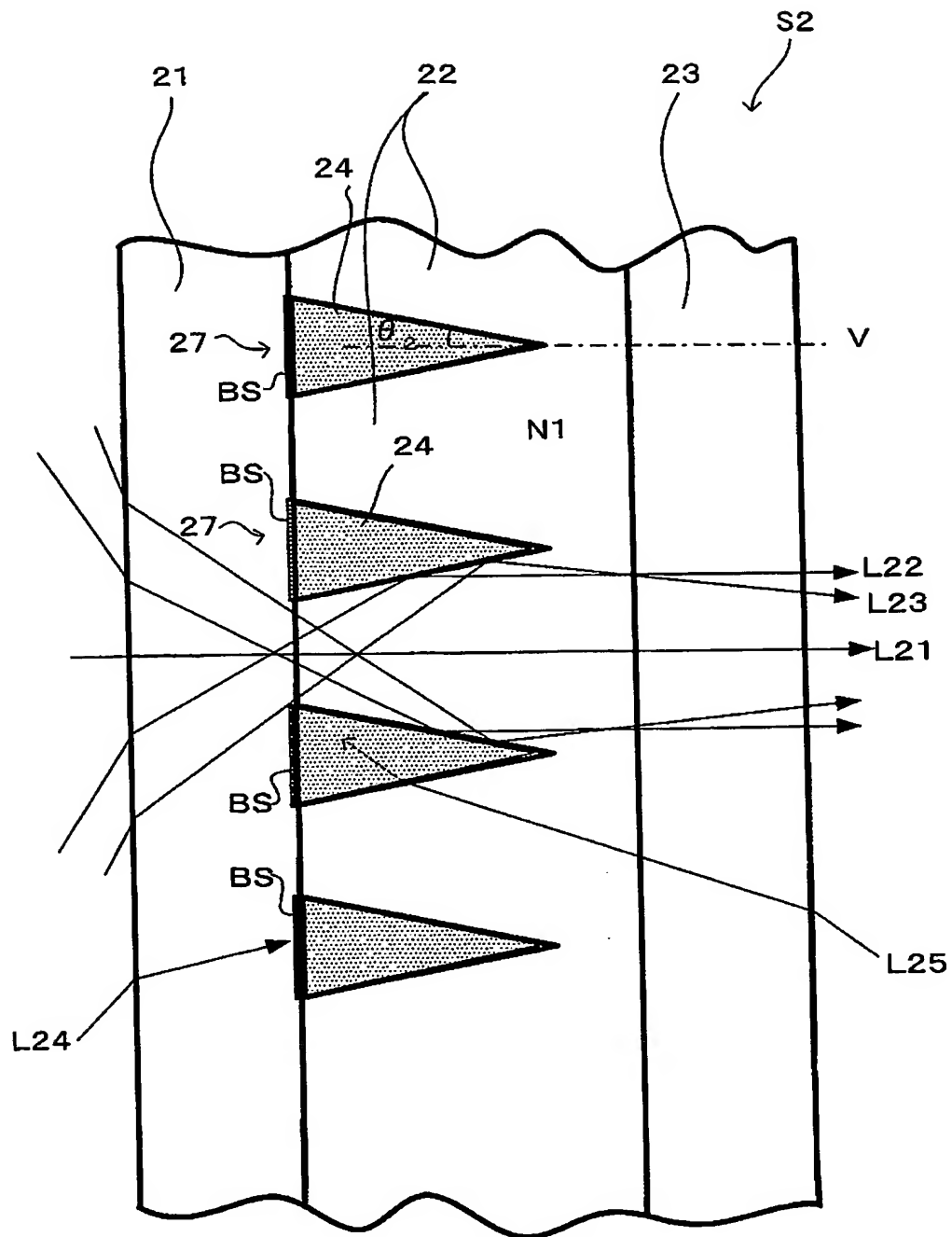
(観察者側)



【図 2】

(映像側)

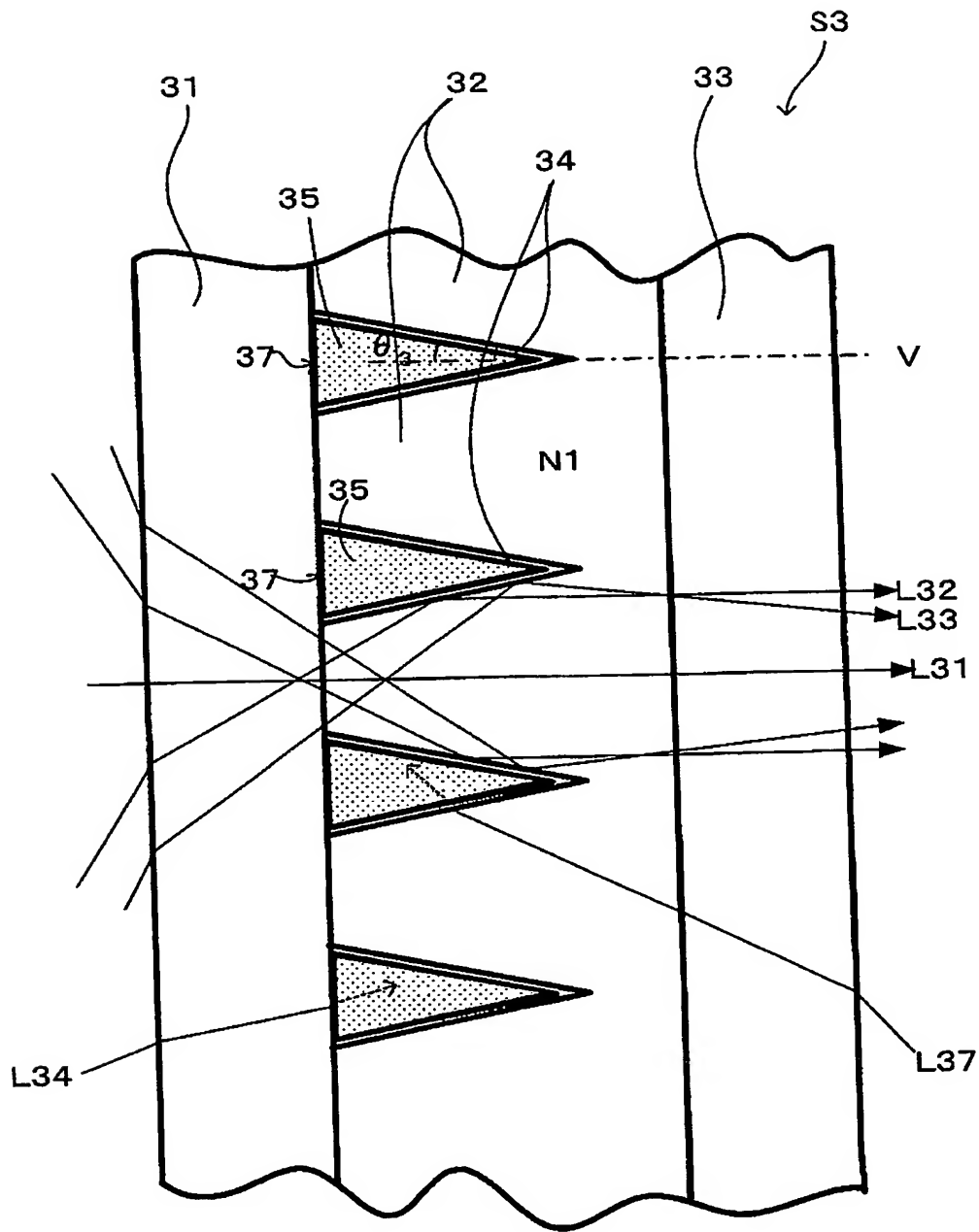
(観察者側)



【図 3】

(映像側)

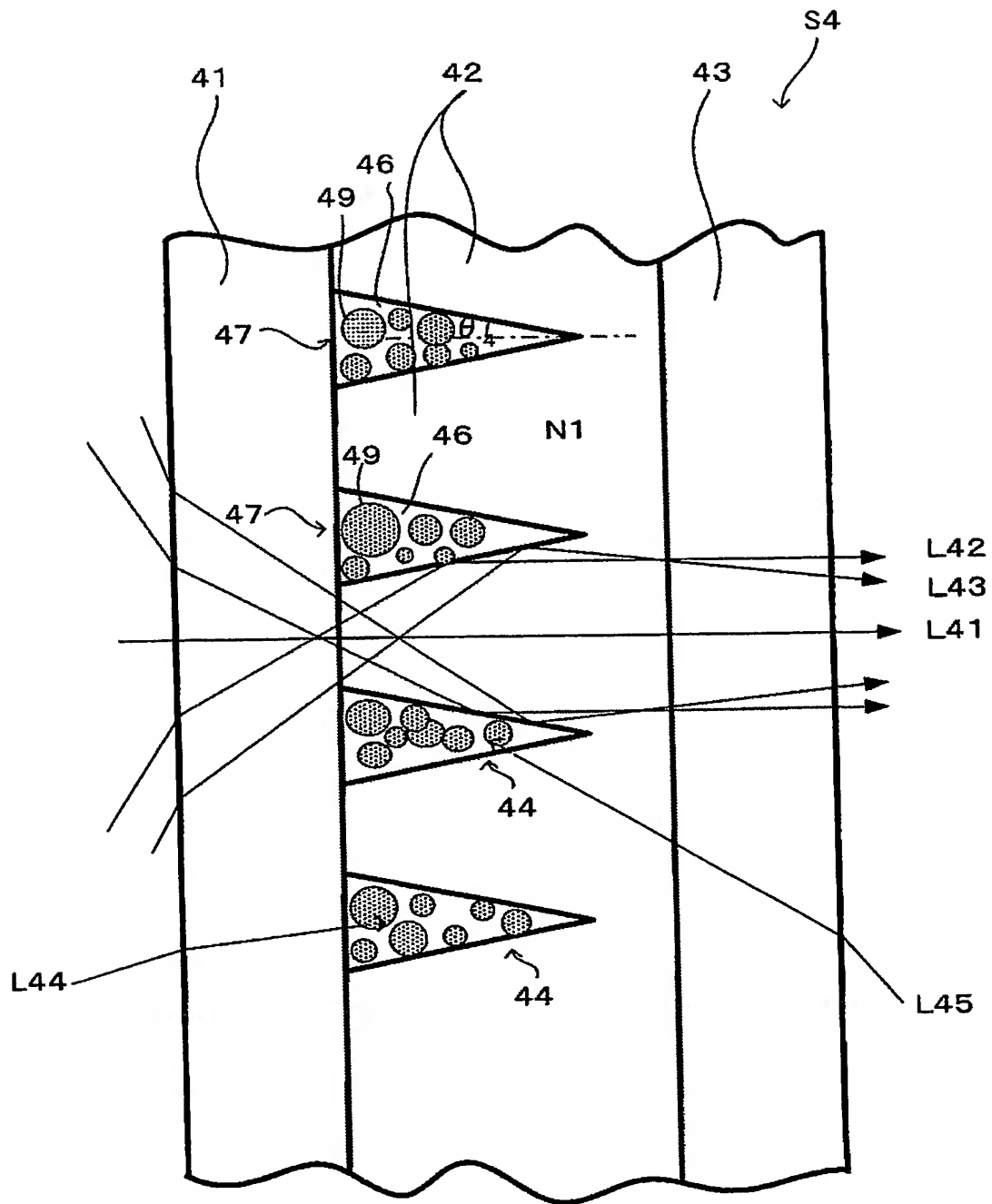
(観察者側)



【図 4】

(映像側)

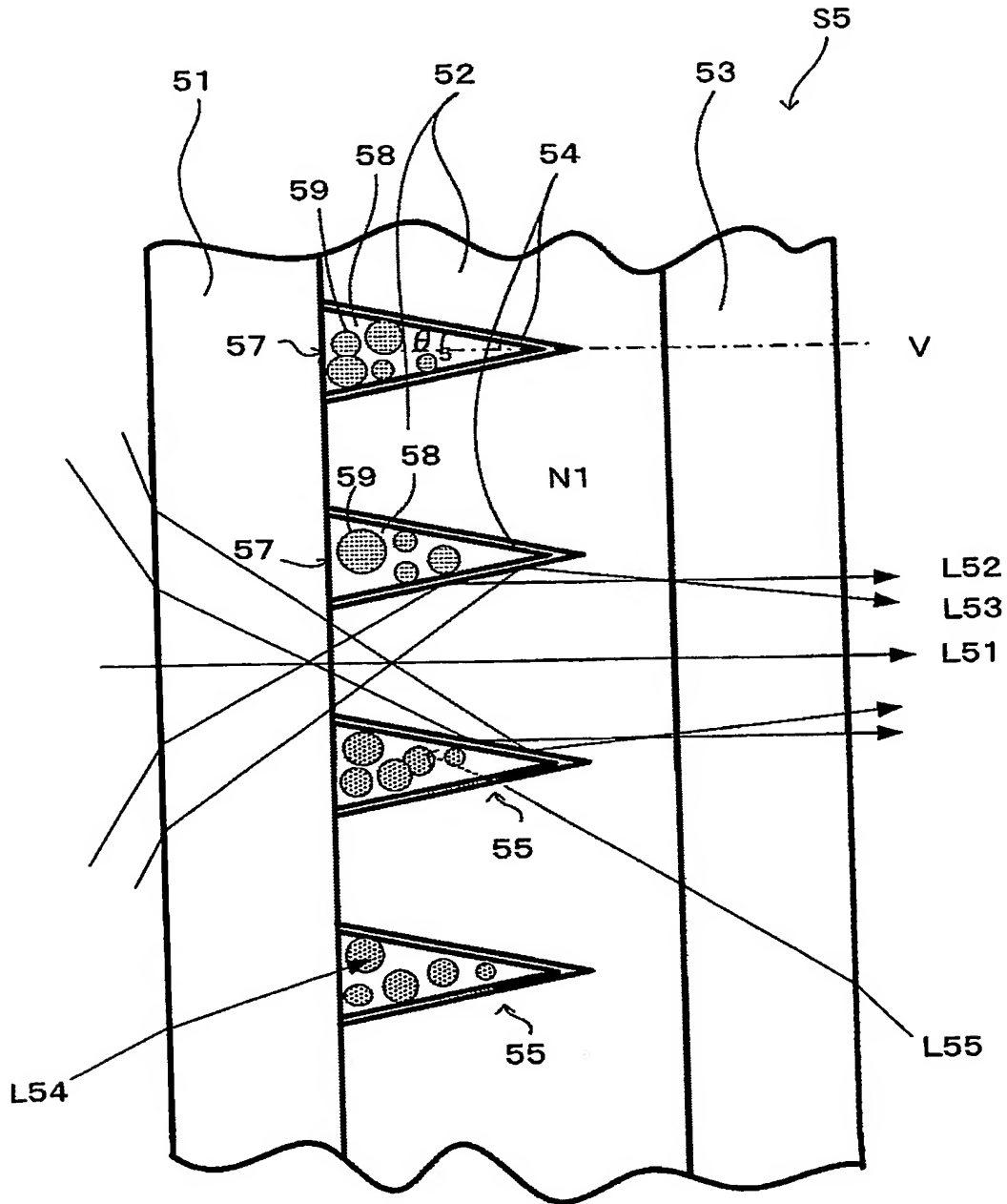
(観察者側)



【図 5】

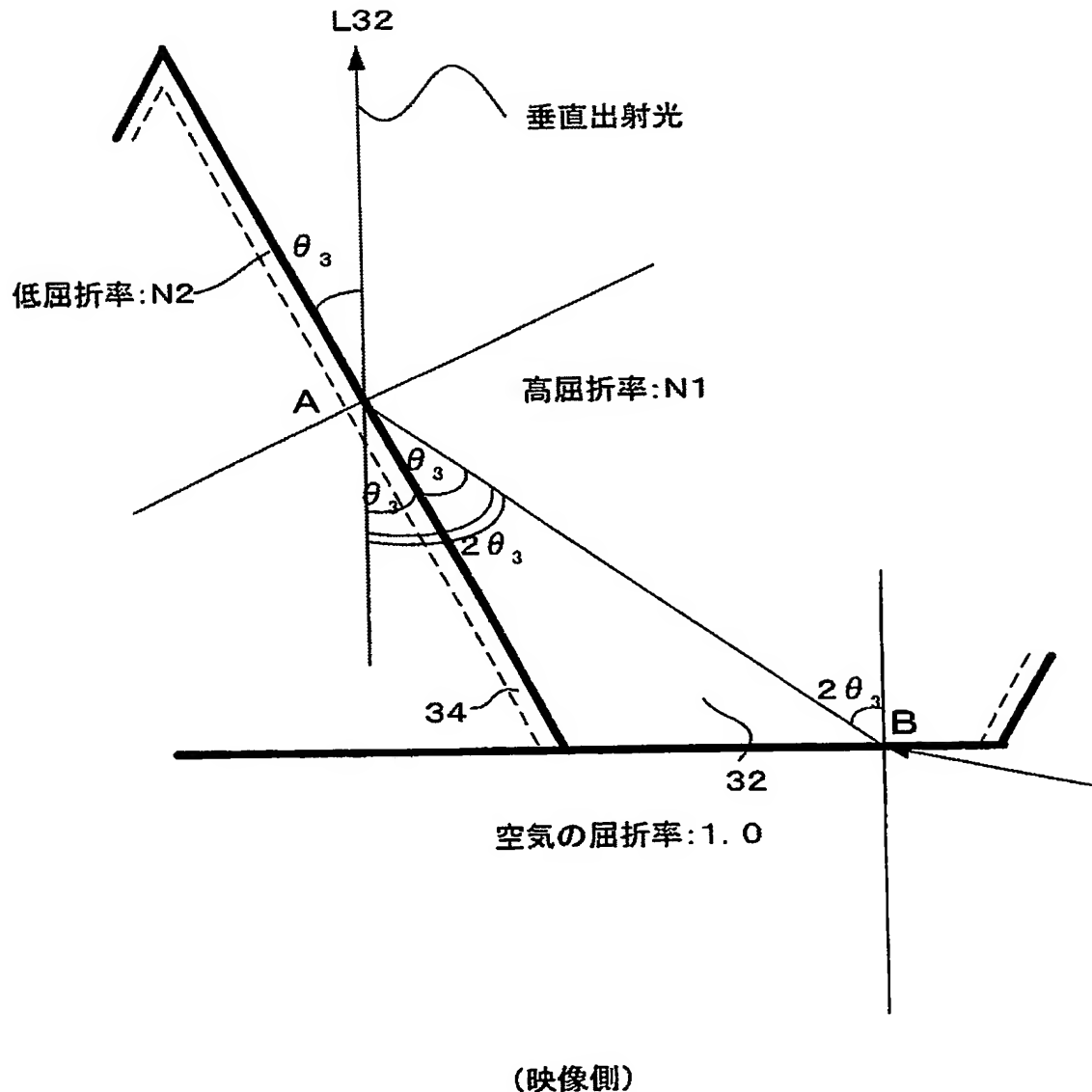
(映像側)

(観察者側)



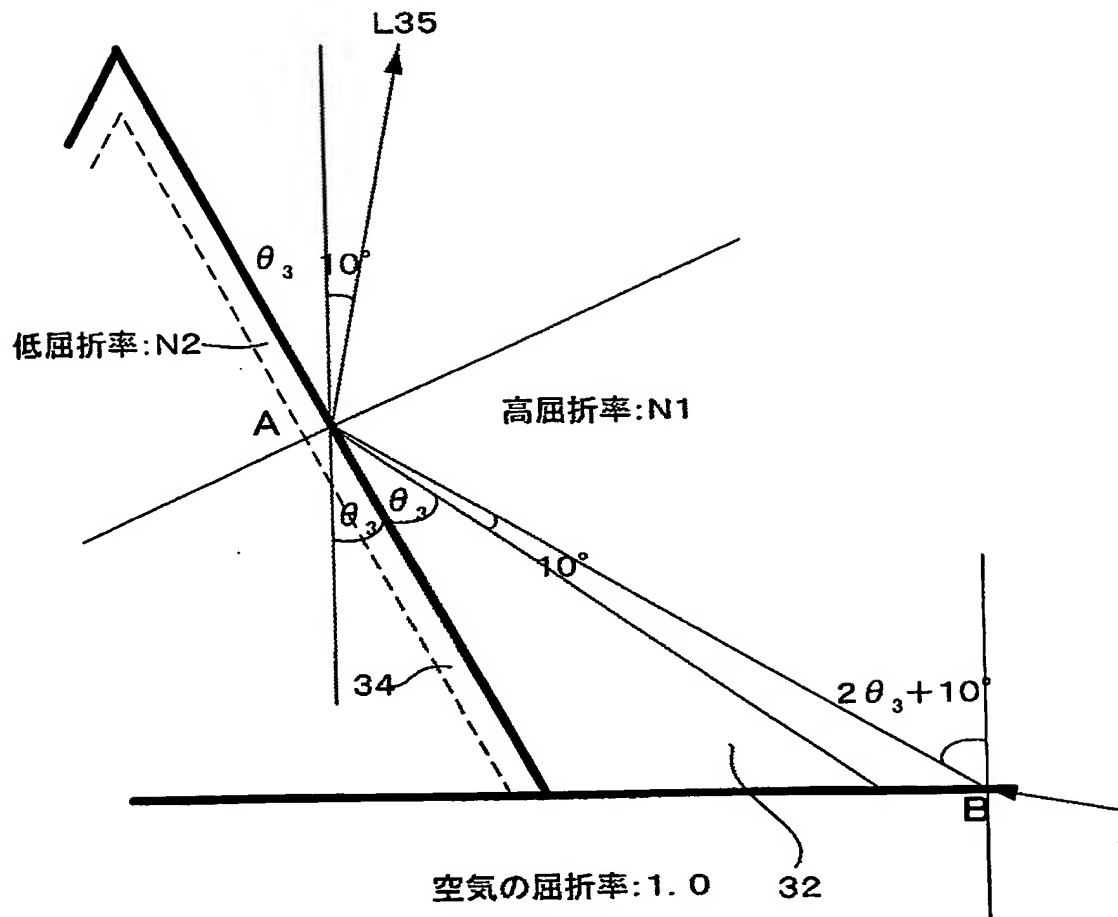
【図 6】

(観察者側)



【図 7】

(観察者側)

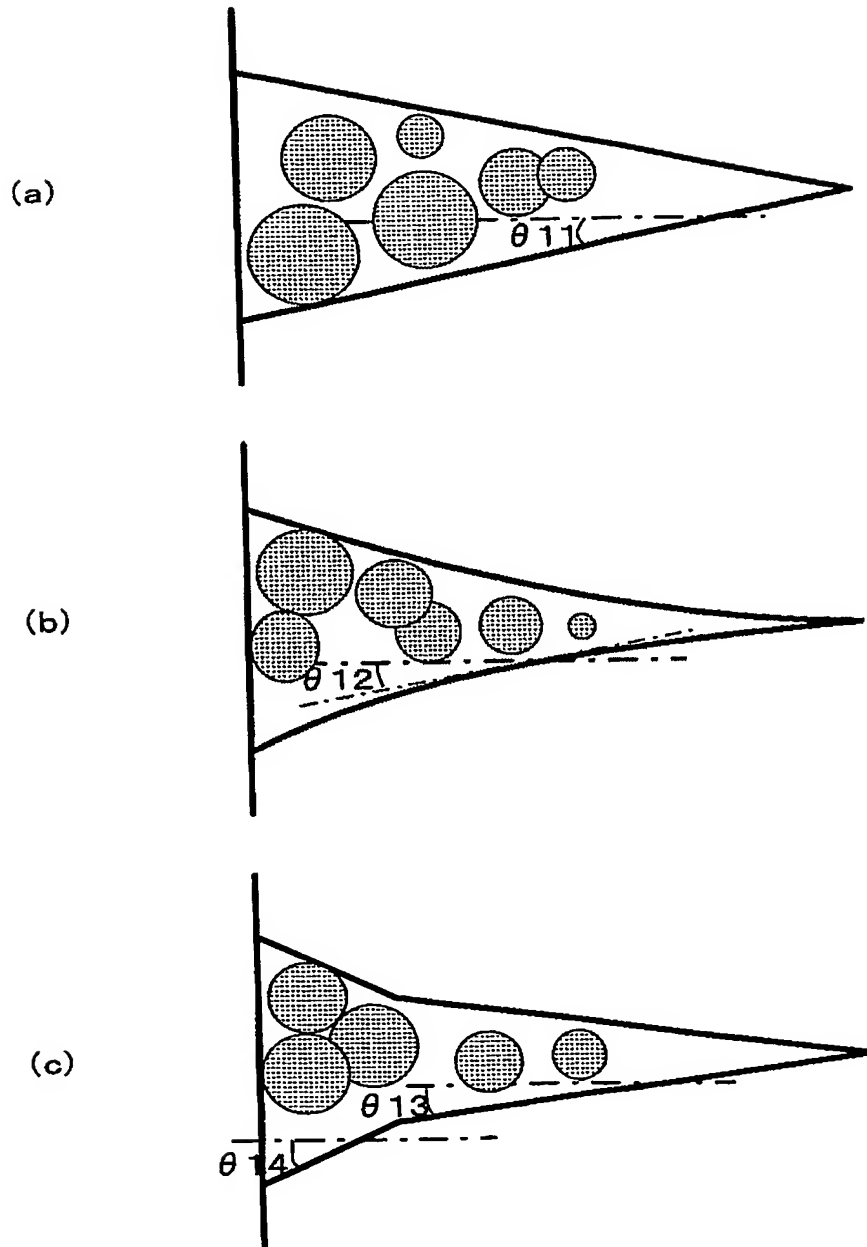


(映像側)

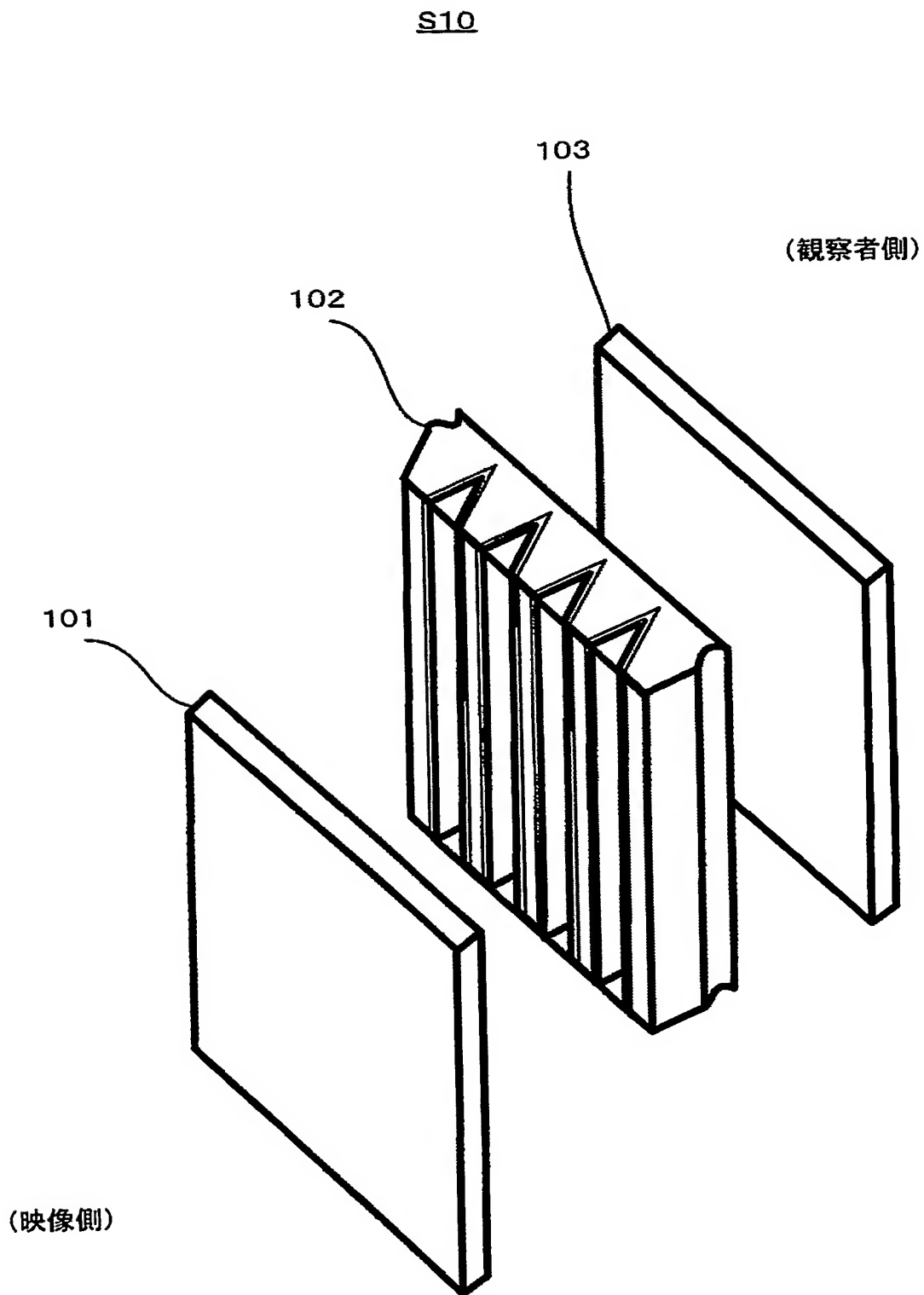
【図 8】

(映像側)

(観察者側)



【図 9】

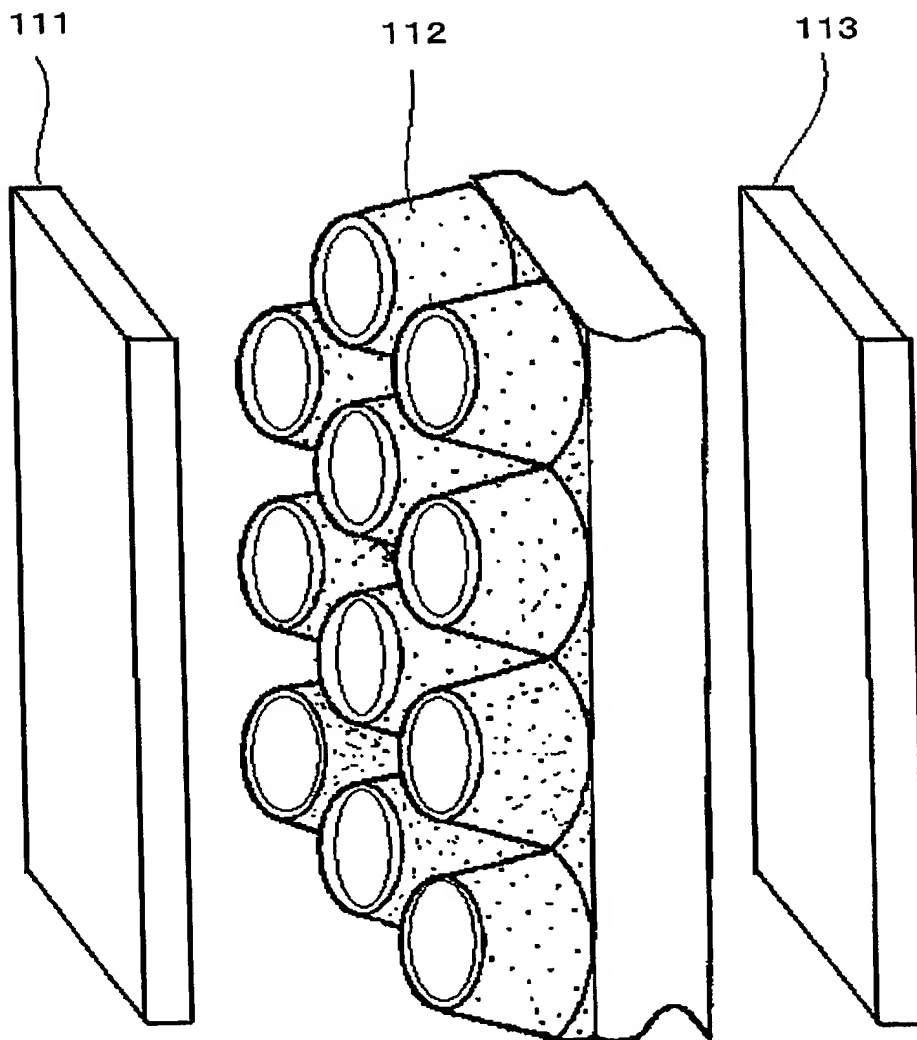


【図 10】

S11

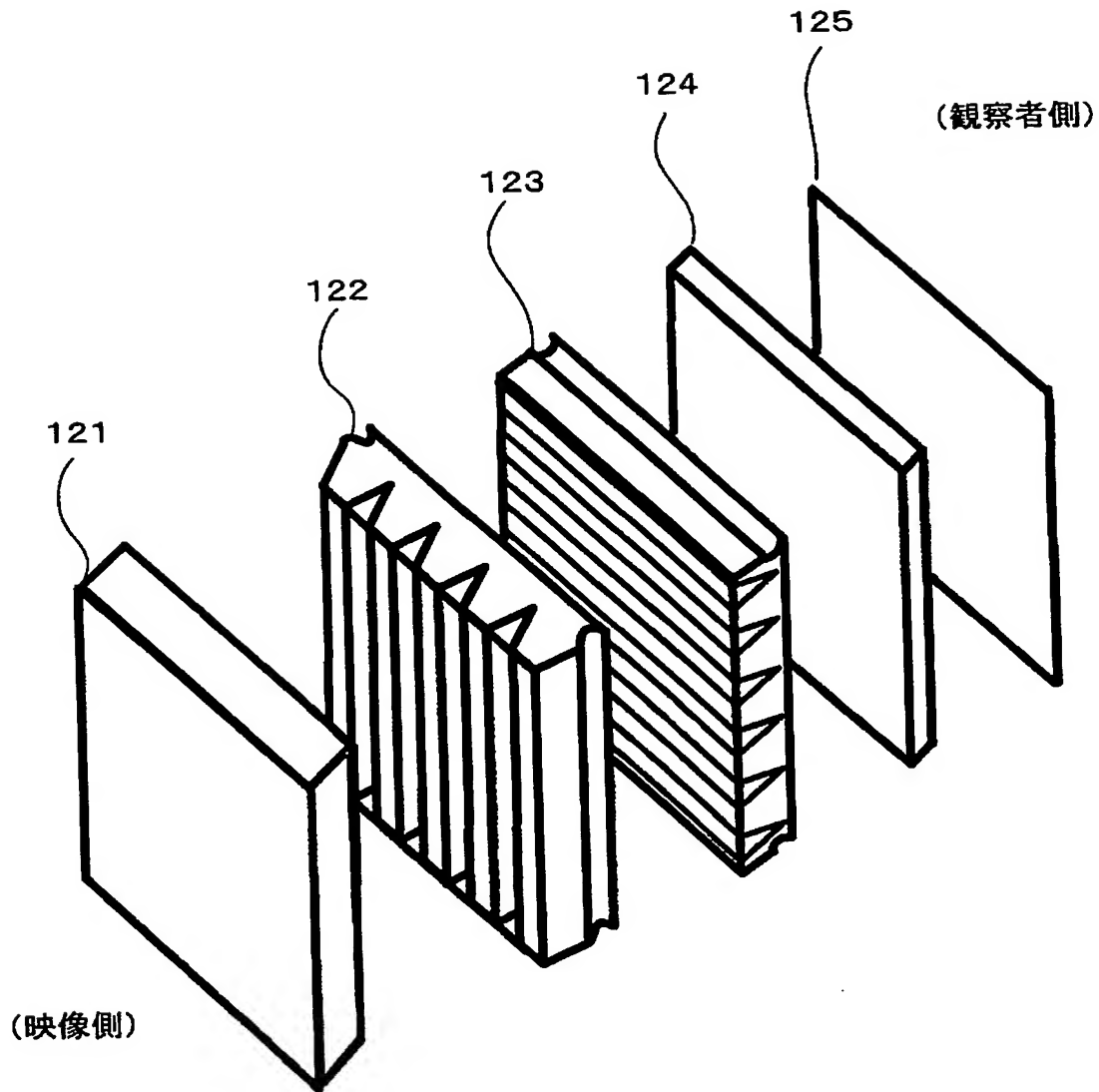
(映像側)

(観察者側)



【図 11】

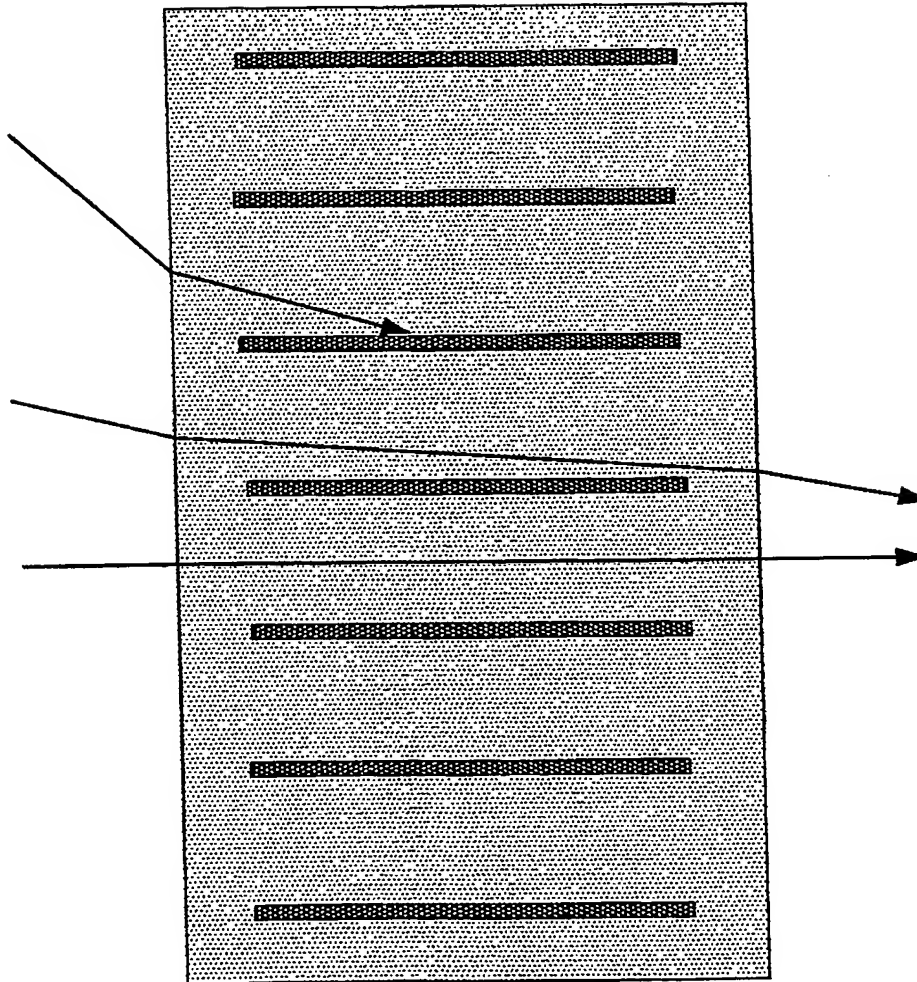
120



【図 12】

(映像側)

(観察者側)



【書類名】要約書

【要約】

【課題】 画面の輝度の低下を抑制しうる視野角制御シートを提供する。

【解決手段】 断面形状が台形のレンズ部を所定の間隔で配列するとともに、隣り合うレンズ部間の楔形部には、レンズ部と同一又は異なる材料を充填し、楔形部は観察者側に先端を設けるとともに映像側に底面を設け、さらに少なくともその斜面部分をレンズ部の材料より低い屈折率の材質から形成する。

【選択図】 図 1

特願 2 0 0 4 - 1 5 4 9 1 1

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [0 0 0 0 0 2 8 9 7]

1. 変更年月日 1 9 9 0 年 8 月 2 7 日

[変更理由] 新規登録

住 所 東京都新宿区市谷加賀町一丁目 1 番 1 号

氏 名 大日本印刷株式会社

Document made available under the Patent Cooperation Treaty (PCT)

International application number: PCT/JP05/007911

International filing date: 26 April 2005 (26.04.2005)

Document type: Certified copy of priority document

Document details: Country/Office: JP
Number: 2004-154911
Filing date: 25 May 2004 (25.05.2004)

Date of receipt at the International Bureau: 26 May 2005 (26.05.2005)

Remark: Priority document submitted or transmitted to the International Bureau in compliance with Rule 17.1(a) or (b)



World Intellectual Property Organization (WIPO) - Geneva, Switzerland
Organisation Mondiale de la Propriété Intellectuelle (OMPI) - Genève, Suisse